

仕事と介護両立支援 実際把握アンケート調査結果報告書

現在、弊社では東京都のワークライフバランス推進助成金である仕事と介護の両立奨励金の申請を行っております。その一環として 10 月に都内従業員（役員除く）にアンケートの実施を行い実際把握アンケート調査結果報告書を作成致しましたのでご報告いたします。

■：【アンケート対象者】 計 30 名（役員を除く都内従業員）

- ・内訳：社内従業員 15 名（役員除く従業員）、都内従業員 15 名（出向中社員）
- ・回答数：25/30（約 83%）

■：【周知・配布方法】

- ・社内従業員に対しては実際把握アンケートの概要とアンケート用紙を各従業員に配布。
- ・都内の出向中の社員に対しては実際把握アンケートの概要とアンケート用紙(Excel)をグループウェア（Desknets）を利用し、各ファイルを添付し回覧。周知を行った。

■：【実際把握アンケート調査結果】

・「介護経験について」

介護をした経験が「ある」が 6 人、「ない」が 19 人。その中、現在も介護をしているという人は（2 人）いることが分かった。また、現在介護していない方を対象に、今後 5 年後のうちにご家族・親族を介護する可能性が少しあるという人は 11 人、介護することはない 12 人という回答になった。

・「介護支援制度について」

「あなたの勤務先の介護に関する支援制度についてどの程度知っていますか」という問いに対して、「制度があるかどうか知らない」との回答が 17 人と最も回答が多かった。そのため、従業員に対して再度、介護休業制度等に関する周知を行うことが必要だと感じた。

・「職場の環境について」

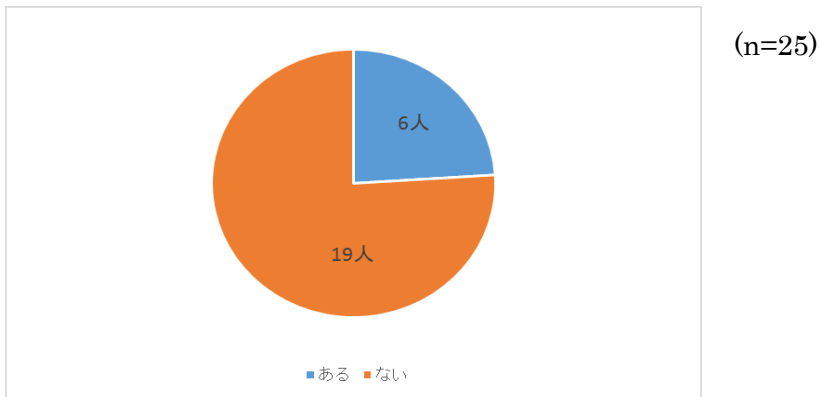
「あなたの勤務先や職場では、長時間労働の削減や業務効率化のためにどのような取組をしていますか」という問いに対して、「特に何も実施していない」との回答が 14 人と最も多かった。そのため、今後の従業員の介護休暇の取得と介護による離職等を防ぐために働き方の見直しや業務のシェアリング、新たな制度の導入・検討が必要になってくると感じた。

■：【今後の取組について】

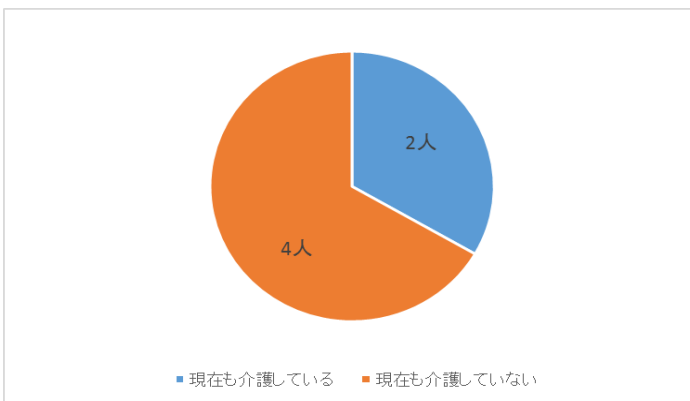
- ・実際把握アンケート調査に判明した課題の抽出
- ・働き方の見直しに関する検討
- ・仕事と介護の両立に関する取組計画の作成

今回の実際把握アンケートの詳細については下記をご覧ください。

Q1：あなたは介護をした経験がありますか。



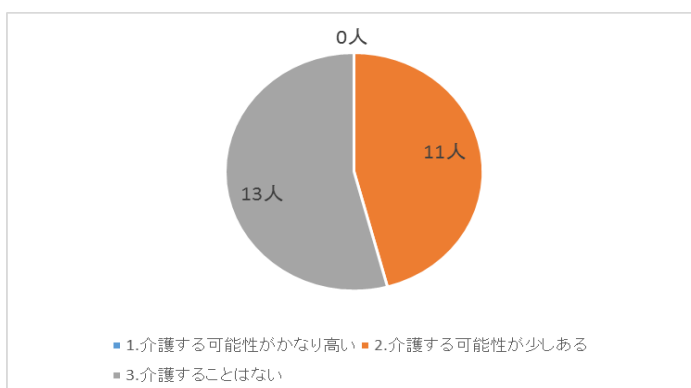
Q2：あなたは現在も介護をしていますか。（「介護をした経験がある」と回答した方）



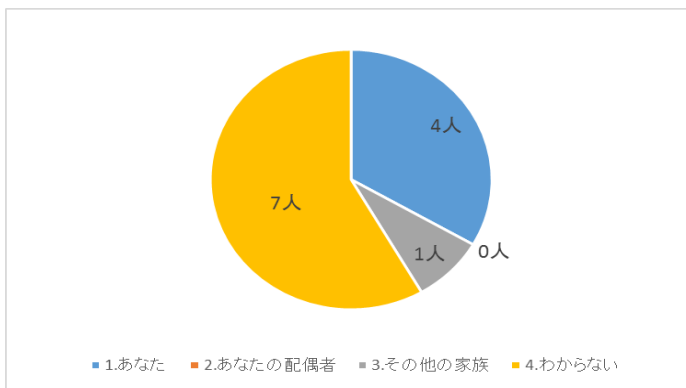
Q3：あなたは、ご自分が介護にかかわっていることを、勤務先の方に話したり相談したりしていますか。（「Q2で現在も介護をしていると回答した方」）

- ・同じ職場の上司=1人
- ・勤務先で話したり相談したりしている人はいない=1人

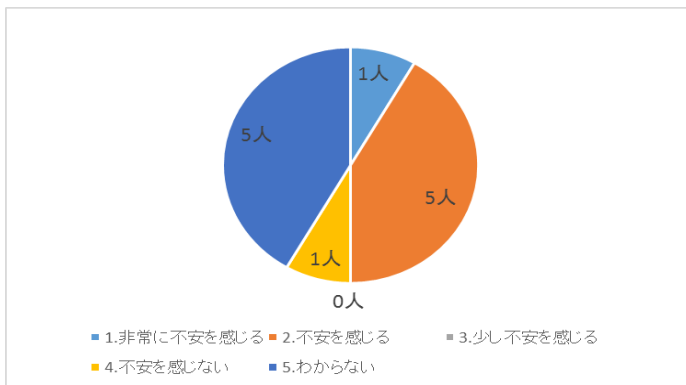
Q4：あなたは今後5年間のうちに、ご家族・親族を介護する可能性はありますか。（「介護を経験したことがない」もしくは「現在は介護をしていない」と回答した方）



Q5：現在主に介護をしているのはどなたですか。（Q4で1.2.の回答をした方。）
将来介護をする可能性がある方はどなたが主に介護することになりそうですか。



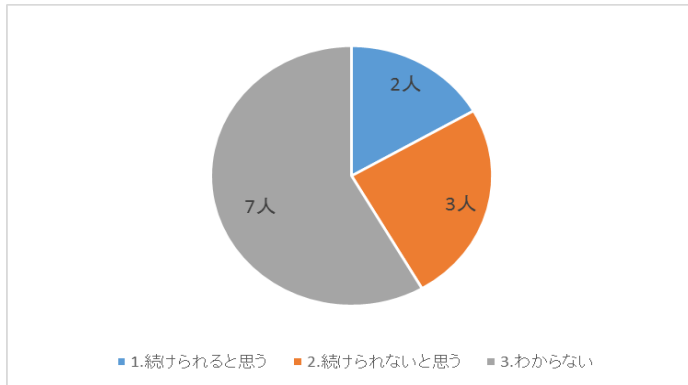
Q6：介護することについて、どの程度の不安を感じますか。



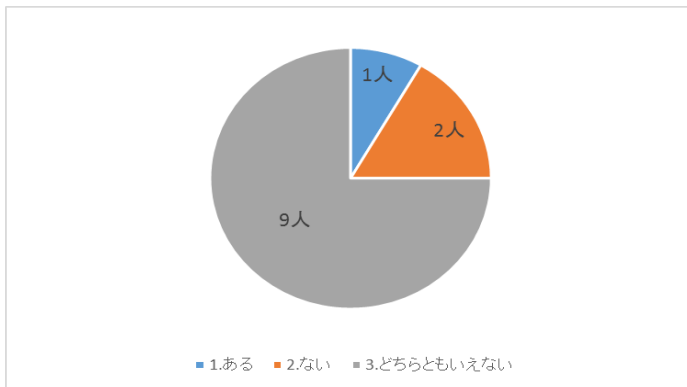
Q7：介護に関する不安は、具体的にどのような不安ですか。 ※複数回答
(Q6で1～3のいずれかに回答した方)

- ・勤務先の介護にかかわる支援制度がない、もしくはわからないこと（4人）
- ・代替要員がおらず、介護のために仕事を休めないこと（2人）
- ・仕事を辞めずに介護と仕事を両立するための仕組みがわからないこと（2人）
- ・そもそも労働時間が長いこと（2人）
- ・公的介護保険制度の要介護者となった場合、どのような状態になるのか予想がつかないの
で、漠然とした不安がある（2人）
- ・公的介護保険制度の仕組みがわからないこと（1人）
- ・介護と仕事を両立する際に上司の理解が得られないこと（1人）
- ・介護休業などを職場で取得して仕事をしている人がいないこと（1人）
- ・適切な介護サービスが受けられるかどうかわからないこと（1人）
- ・ほかに介護を分担してくれる家族がいないこと（1人）

Q8：介護をしながら、現在の勤務先で仕事を続けることができますか。



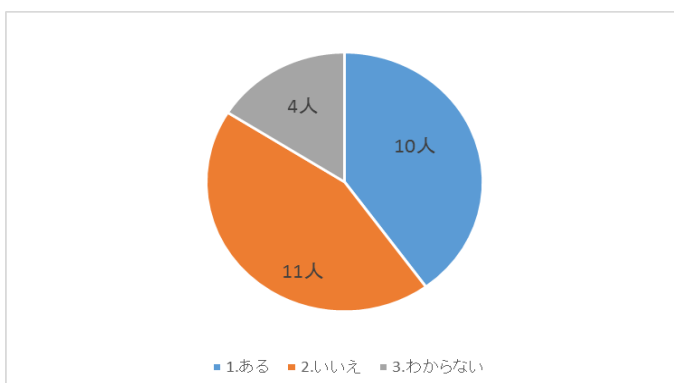
Q9：介護のことについて、職場の上司や同僚に話したり、相談したりすることができる雰囲気が、職場にありますか。



Q10：あなたが介護することになった場合、どのような働き方が望ましいと思いますか。

- ・介護休業や介護のための短時間勤務などの支援制度を利用しつつ、できるだけ普通に働き続けながら、仕事と介護を両立する（17人）
- ・その他（7人）
- ・仕事の仕方を特に変えない（1人）

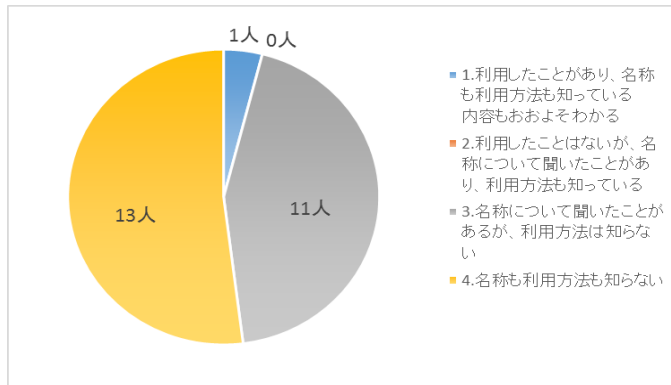
Q11：あなたは、公的介護保険制度の被保険者ですか（介護保険料を支払っていますか）。



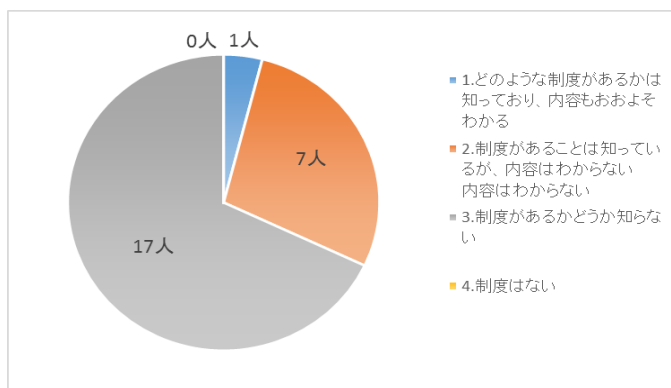
Q12：あなたは、公的介護保険制度のことについてご存知ですか。（知っている内容全て）

- ・要介護の認定基準には「要支援」と「要介護」があること（14名）
- ・介護保険のサービスを受けられるのは原則65歳以上であること（13人）
- ・介護保険サービスは生活をする上で最低限の介護サービスを提供しているので、できないサービスもあること（10人）

Q13：あなたは、地域包括支援センターのことについてご存じですか。



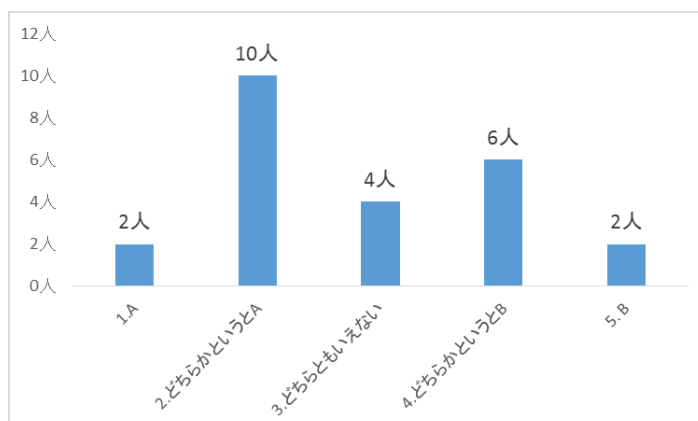
Q14：あなたの勤務先の介護に関する支援制度について、どの程度知っていますか。



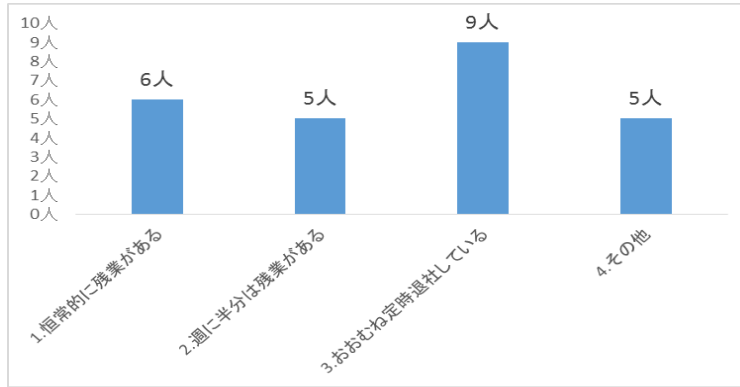
Q15：介護休業に対するあなたの考え方をお聞きします。あなたの考えにもっとも近いものをお選びください。

A：介護休業期間は主に仕事を続けながら介護をするための体制を構築する期間である

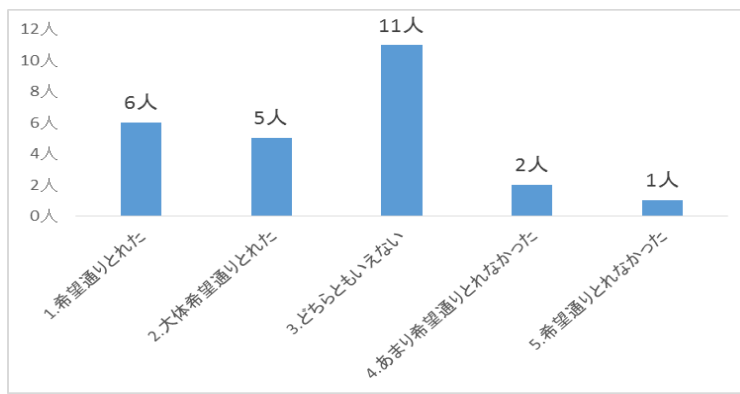
B：介護休業期間は介護に専念するための期間である



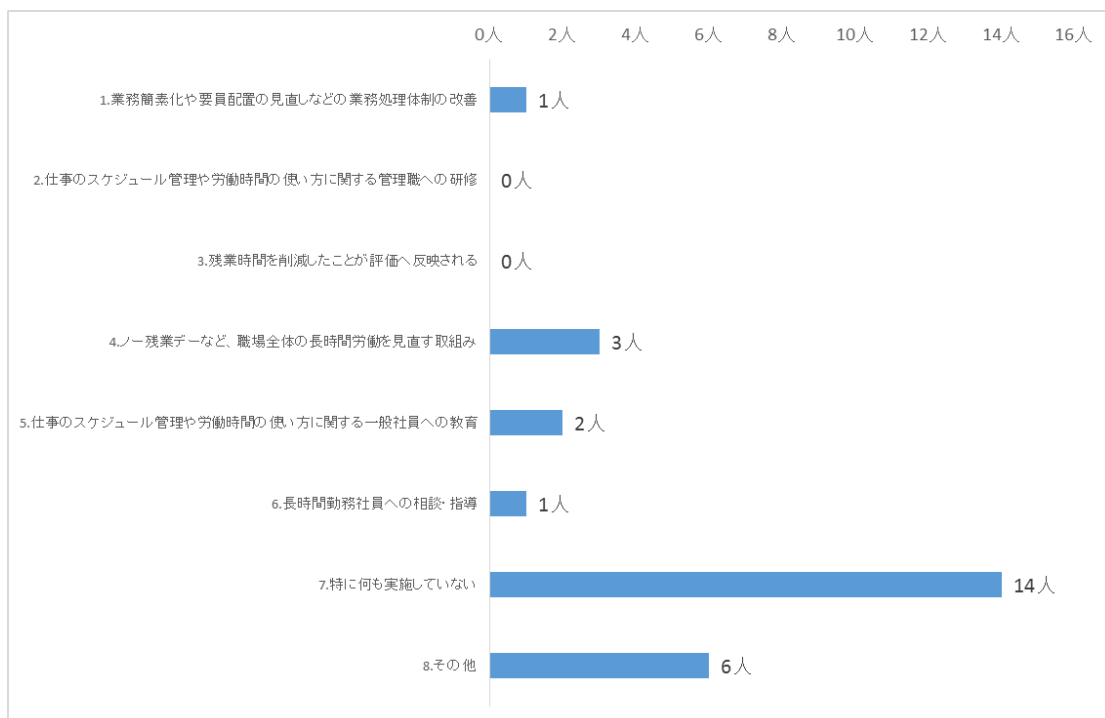
Q16：あなたの職場の残業の程度は平均的にみて次のどれにあたりますか。



Q17：あなたの1年間の年次有給休暇は希望通りとれましたか。

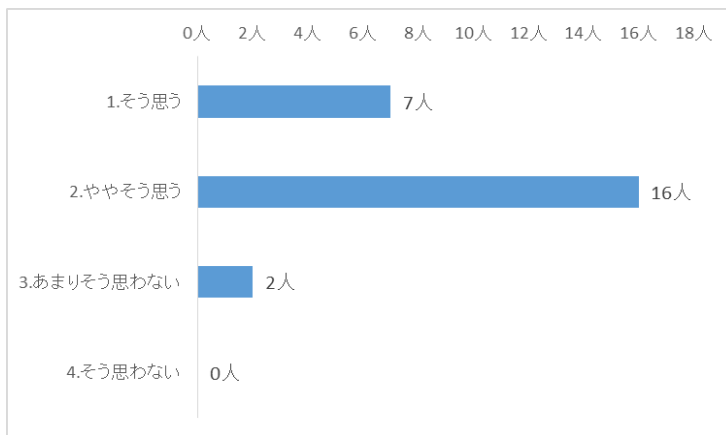


Q18：あなたの勤務先や職場では、長時間労働の削減や業務効率化のためにどのような取組をしていますか。（※複数回答）

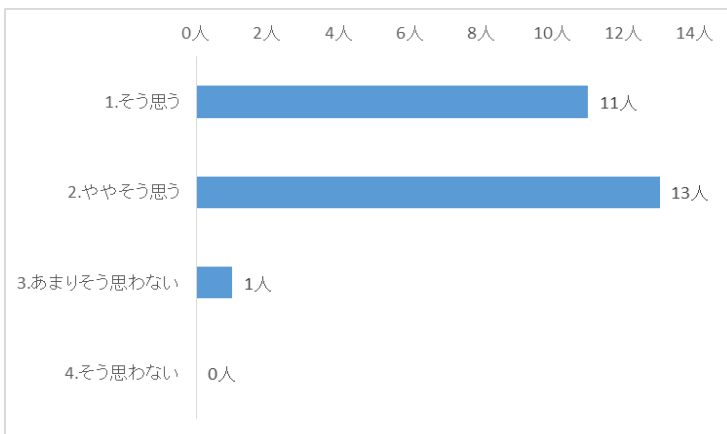


Q19：あなたの職場のコミュニケーションについて、最も当てはまるものについて

(1) 上司とのコミュニケーションは円滑である



(2) 同僚や部下とのコミュニケーションは円滑である



Q20：性別・年齢比

